

RC床版の下面の現時点の損傷情報(ひび割れなど)を入力することでAIが余寿命を評価
【新たな仕事の仕方】

| | | | | | |
|----------|-----------|----|----|------------|-------|
| No | 7 | 分野 | 橋梁 | プロセス | 維持管理 |
| 目的 | 事象の認識 | | | 撮影・可視化対象事項 | 形状、位置 |
| 対象物(部材等) | コンクリート構造物 | | | 活用効果 | 品質 |

現在の仕事の仕方

■ 点検結果をもとに健全性を評価

- 近接目視を基本とし、橋梁の状態把握を行う
- 目視の結果から部位、部材ごとに損傷程度を評価(損傷結果はイラストや写真で記録)
- 評価結果を踏まえて、橋梁全体の機能に及ぼす観点から健全性を診断する
- 次回点検時までの対策区分(優先度)は整理されるが、余寿命は評価されない。

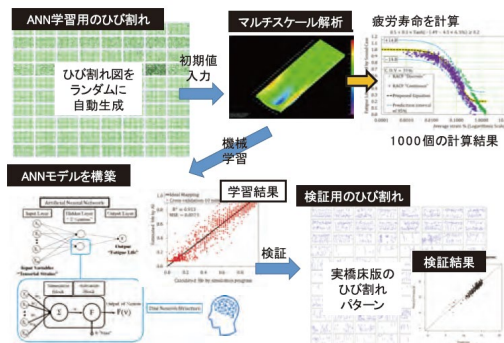
| 区分 | 定義 |
|------------|--|
| I 健全 | 道路橋の機能に支障が生じていない状態。 |
| II 予防保全段階 | 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。 |
| III 早期措置段階 | 道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。 |
| IV 緊急措置段階 | 道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。 |

【画像・映像情報の活用目的】
損傷の記録

新たな仕事の仕方

■ AIによるRC床版の余寿命の評価

- 当該AIモデルに、RC床版の下面の現時点の損傷情報(ひび割れなど)を入力することで、余寿命を評価する。
- 損傷劣化状態(現時点)をインプットして、高度なFEM解析を行うことで、重交通荷重に対する疲労余寿命の計算を行う。



【画像・映像情報の活用目的】
損傷の評価・余寿命の判定

| | |
|------------|--|
| 撮影・可視化対象事項 | 【位置】事象の認識 【形状】事象の認識 |
| 撮影・可視化条件 | (記載なし) |
| 対象の属性情報 | 【仕様・諸元】交通荷重、学習用のひび割れ図 【計測・点検結果】損傷情報(ひび割れなど) |